第５回てつがくカフェ　切実な＜私＞と＜公＞、どちらを選ぶべきか？

議事録

2011. 11. 27

対話の起点
言及されなかった起点
ファシリテータのコメント
発言の起点

赤・・・問題提起
青・・・考え方・視点の提供
緑・・・交通整理、まとめ
黒・・・事例、感想の提供

14:09 ＜私＞と＜公＞どちらを選ぶべきか？ ①
- 資料の紹介：南相馬市の病院　残るか避難するか

14:14 どんな論点があるだろうか？ ②
- 1．すぐに逃げるのは、自分の子ども優先だから常識的には当たり前。しかし、一方で、自分のためだけに逃げていいのだろうかと思う（A）
- 2．本音として、死にたい人はいない。少なくとも私は、自分のためには死ねるが、人のためには死ねない（B）
- 5．私は元公務員だが、問題は、その場で、その人が自分を「公人」と「私人」どちらだと思っているか、ではないか。職業として公人でも、私の判断だ、と思っていれば私人（E）
- 13. 語源として、Publicは「開示」とprivate「奪われた」（J）
- 21. 前回の、＜個＞としての体験を積み重ねていくと＜公＞になる、という意見にも関連して、「実は＜私＞か＜公＞か、という問いはいつでも身近にあるのだけれど、普段はそれに気づいておらず、震災でそれが暴露されただけ」という発言についても、みなさんの意見を聞いてみたい（J）
- 34. 専業主婦だけれども、少なくとも隣近所の人とは助け合った。復旧は支えあうことから始まっていったと思う。「自分のことだけを考える人は自分をも滅ぼす。人のことを考える人は、自分も助かる」＜公＞＜私＞という（トップダウンの）概念からだけでなく、身近な自分の経験からも振り返ってみては？（P）

3 14:23 3.11当日に何を考えたか？ ③
- 4．公的施設の中におり、そこが一時避難所として報道されたため、そこに勤める人は＜私＞から＜公＞に変わった。あとで、なぜ家庭を顧みなかったのかと、友人から咎められた（D）
- 6．頼ってきた人が目の前にいるときに、自分の都合を優先するのは難しい。「なぜ、あの人だけ家に帰って、私は残らなければならないのか」という、周囲の感情もある（F）

3 何を持って日常を守ろうとするのか？ ④
- 3．大勢の人が亡くなったにもかかわらず、自分の日常を守ろうとする東京の光景（C）

＜私＞から＜公＞に変わる瞬間とは？ ⑤
- 7．家を失い、広島へ避難した。避難中、他の避難者を自宅に受け入れたときから、＜公＞になった。人には、自分のことを優先していいよ、と言われたが、できなかった。ただし、無理をして＜公＞であり続けて、精神的に参ってしまうくらいなら、＜私＞を優先してもいいと思う（G）
- 31. 個人を犠牲にしてまで動いた方々は、＜公＞のことを個人のことに取り込んで考えていたのかなと思った。私はそうではなかった。学生というのもあるが、自費で出費をしてまでボランティア等の＜公＞に動くことはしなかった（F）

＜公＞から＜私＞に変わる瞬間とは？ —

8 ＜私＞と＜公＞の境界はどこに？ ⑦
- 8．たとえば、原発作業員は、＜私＞？＜公＞？（E）
- 9．「自分はどうなろうとも、他人のために」という考え方ならば、公人ではないか（B）
- 11. 人との関わりあいの中で、＜公＞と＜私＞を区別するのは難しい。たとえば「家族を守る」という使命感も、完全に＜私＞であるとは言いがたい＜H＞
- 12. 国家が＜公＞というのは解る。しかし、教職には、私立も公立もあるから、区別がつかない。看護士や教師は、「聖職」とでも言えばいいのだろうか・・・（I）
- 14. 正しいか間違ってるかなど、二者択一を迫るような報道、色分けしたがる風潮を疑ってみたい。たとえば肩書きも、誰かにつけられたもので、その人が「私の意志で動いている」と考えているなら、それは＜私＞ではないだろうか？（E）
- 15. 近代国家において、国民は国家に帰属しているから、誰でも（公務員ではなくても）＜公＞の側面を持っている。＜私＞と＜公＞の厳密な線引きは不可能。だから、今回は政治的な部分は除外して考えてみてはどうか？（C）
- 16. 在日外国人など、投票権のない人にも目を向けてほしい（A）
- 22. 非常時になると、制度ではカバーできない対応が出てくる。カバーできないなら、新しく制度をつくったり、市民の力を借りたりしないといけないから、境界が曖昧になるのだろう（L）

19 15:12 そもそも分けられるのか？ ⑪
- 19. そもそも、わけられない、という視点もあるのでは？　「共助」のような（E）
- 23. 全くの私人はいないと思う。どちらにより重きがあるか、程度の問題（I）
- 24. 厳密には分けられないと思った（B）
- 法的な責任がないのに家庭を優先しなかった、そんなときに感じる違和感は、このあたりにあるのかもしれませんね

21 ＜個＞が＜公＞につながる？ ⑬
- 33.「今、ここであなたはどうするの？」「もし、あなたの身に同じことが起こったら？」　そう問う機会がたくさんあったから、＜個＞が＜公＞につながったのかなと思った（J）

何を基準に＜私＞＜公＞を選ぶのだろう？ ⑥
- 今日の最初のテーマ設定が、根本的な問いになっているとは限らない。テーマの前提を問い直すことも含めて、みなさんの声を聴いて考えていければ
- 17. 論点を整理すると、
  - ・市民社会における基準
  - ・公務につく人が、公務の倫理規定に縛られるとき、どう判断すればよいか？
  - ・市民社会を優先するのではなく、自分にとって近しい人のため
  - ・近しい人へ、という範囲を超える行い
  - ・コミュニティ全体が揺さぶられる危機。危機レベルが高いときと低いときでは異なる（K）
- 概念を整理すると、「職業」「市民社会」「普遍的倫理」の３つに分類？
- 20. 最初のテーマに沿った議論ができれば・・・（D）

9 14:44 ＜公＞と＜私＞＜公人＞と＜私人＞は同じ意味？ ⑧
- 10. 言葉の使い方について、区別しよう。＜公＞と＜公人＞、＜私＞と＜私人＞は同じではない（H）

2011. 11. 27

10
そもそも
どちらかを選ぶ
べきなのか？
⑨

27. 僕らが謝るのは、相手がその言葉を求めているからだと思う。前提として「どちらかを選ぶべき」という重圧があって、それで＜公＞と＜私＞が出てくるのでは？（H）

28. 1人1人が判断するしかないのでは？　優先順位をどうつけるかも、つきつめれば自分の判断。たとえば1人しか助からない、というような極限状態を想定して考えてみては（E）

30. それは公だと思う（B）

29. 平常時の教育では、人のためになることをしなさい、人に尽くしなさいと教える。それを危機的状況にそのまま持ち込んでいるから、個人の判断とは言い切れない側面も（N）

35. どちらを選んだとしても、負い目は残ると思う。震災に限らず、人は人のことを責めてしまうものだ。自分はそう選んでよかった、と肯定的に思えることが大切ではないか（Q）

15:27
どちらかを
優先すると
なぜ負い目に？
⑫

25. 保育所の例。私の知る保育所では、みんなで助け合った。しかし、もしそこで働いている人が自分のためだけに動いたとしたら、そこで、つながり（共助）が止まってしまうと思う。
また、会社の例では、＜私＞の都合を終えて復帰するときに「すみません」と言った。家では「これから復興をどうしよう」とは考えていなかったから、負い目があったのかもしれない（M）

26. 看護士など国家資格をもつ人は、高い職業倫理を求められる。知識や技術を持っていて、
それを用いれば人を助けられる、というときに、その技術を個人のためだけに使ったら、負い目に思う（書記）

36.（聴覚障害を持つ1人として、）＜私＞として語るけれども、聾唖の人たちは、筆談、要約筆記、手話のボランティアの人たちに本当に助けられた。
逆に、この役目を果たせなかった専門職の人たちは、今、すごく負い目を感じている（R）

10
そもそも
なぜ選ぶことに
なるのか？
⑩

32. そもそも＜公＞という時点で、内容に関係なく「責任」が生じる。てつがくカフェも、参加するかどうか決めるのは自分だけれど、発言するなら＜公＞を意識する。
選ぶ以前に、「責任」が先立つように思う（O）

15:58
まとめに
かえて
⑭

36.. 殉職という話題も出たけれども、この議論が終わったら、（＜公＞の職務で殉職したような人たちには）手を合わせませんか（R）

配布資料について。
・親鸞：行きは＜私＞のためでもいいが、帰り道は＜公＞のために
・カント：職業に則るのは＜私＞、職業を超えるのが＜公＞
・キャロル・ハニッシュ：＜私＞のものにも、政治的なものが含まれている。
（女性が家庭で抱える問題は、実は個人のものではなく、政治的なもの、という主張）

問い⑦から派生：　てつがくカフェは＜公＞の場？

18. そもそも哲学カフェは＜公＞？＜私＞？
哲学カフェで何を求められているのか？
「みんなが理解できるように話そう」と心がけるのだから、
この場は＜公＞だと思う（H）

21. てつがくカフェの公共性について。参加することで、
自分なりに考えてみて、家に持ち帰ることができる場、
というように思っていた（J）

32. てつがくカフェは、参加するかどうか決めるのは自分だけれど、発言するなら＜公＞を意識する（O）

問い⑪から派生：
理論的に考えられる４つの視点

それは＜私＞としての行動か？

それは＜公＞としての行動か？	YES	NO
YES	＜私＞と＜公＞両方である	＜公＞である
NO	＜私＞である	＜私＞と＜公＞どちらでもない